



第177期

中間事業報告書

平成12年4月1日～平成12年9月30日

ヤマハ株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社第177期上半期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）の営業概況についてご報告申し上げます。

当期間におけるわが国経済は、民間設備投資が堅調であったものの、個人消費に勢いがなく、回復の足取りは緩やかなものとなりました。また、海外では、米国経済が引き続き好調であったほか、欧州・アジア経済も総じて順調に推移しました。

このような状況の中で当社は、ピアノ100周年記念事業において各種イベントを開催し多くのお客様にピアノの良さ、楽しさを再認識していただいたほか、アコースティックバイオリンを開発、発売するなどアコースティック楽器におけるヤマハブランドを強くアピールする一方、携帯電話着信メロディーサービスの拡大、インターネットとライブを融合させた新しい公開オーディションイベント「ミュージック・フロント」の立ち上げ、レーベル会社「株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ」の設立、電子楽譜出版配信会社「ヤマハミュージックインタラクティブ」（米国）設立などメディア・ビジネスの推進に注力しました。また、ホームシアター関連商品、情報通信機器の充実、携帯電話用音源LSIの拡売に努めました。

販売の状況につきましては、楽器部門が国内市況の低迷と為替の円高影響から売上げ減少となりました。オーディオおよび情報通信機器部門もCD-R / RWドライブの低価格化と円高の影響により売上げ減少となりました。電子機器部門では半導体が売上げを伸ばしました。

以上の結果、当上半期の売上高は1 783億26百万円

(前年同期比10.7%減少)となりました。このうち、国内売上高は882億77百万円(前年同期比8.3%減少)、輸出売上高は900億49百万円(前年同期比12.9%減少)となりました。

利益につきましては、経常利益は103億82百万円(前年同期は経常損失6億37百万円)となり、当期利益は74億70百万円(前年同期は当期損失159億46百万円)となりました。

中間配当につきましては、11月17日開催の取締役会において1株につき3円とすることを決定いたしました。

景気は個人消費、為替などに不透明感を残し、下半期も経営環境は予断を許さない状況が続くものと思われます。当社といたしましては、楽器事業およびAV・IT事業の収益力強化、メディア・ビジネスの拡大、さらなる経営の効率化を図るとともに、多角化事業の収益構造を確立し、業績の向上に鋭意努力してまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年12月



ヤマハ株式会社

代表取締役社長 伊藤修二

部門別営業の状況

楽器部門

国内

ピアノは、100周年記念モデルや普及価格帯のアップライトピアノが売上げを伸ばしましたが、電子型ピアノが振るわなかったことから微減となりました。電子楽器は、エレキギター、一段電子鍵盤楽器の不振により売上げ減少となりました。また、管弦打他楽器は、初めて自社で開発したアコースティックバイオリン「ブラビオール」が好評を博したものの、市況の冷え込みから全体的には低迷し、売上げ減少となりました。

以上により、当部門の国内売上高は385億50百万円（前年同期比5.4%減少）となりました。

輸出

ピアノは北米を中心に売上げを伸ばし、電子楽器、管弦打他楽器も好調に販売数量を伸ばしましたが、為替の円高影響により、全体としては売上げ減少となりました。

以上により、当部門の輸出売上高は547億53百万円（前年同期比2.4%減少）となりました。

オーディオおよび情報通信機器部門

オーディオにつきましては、為替の円高影響はあったものの、アンプ、レシーバー等ホームシアター関連商品が国内外で高い評価を得て、堅調に推移しました。

情報通信機器につきましては、CD-R/RWドライブが大幅に販売数量を伸ばしましたが、市場での低価格化がさらに進み、為替の円高影響もあり売上げは減少となりました。また、ISDNルーターは引き続き伸長しました。

以上により、当部門の売上高は431億26百万円（前年同期比10.1%減少）となりました。

電子機器部門

半導体は、携帯電話用音源LSIが大幅に売上げを伸ばしたほか、アミューズメント向けLSI等も引き続き好調に推移しましたが、薄膜磁気ヘッド事業からの撤退により売上げは減少となりました。

以上により、当部門の売上高は142億88百万円（前年同期比47.2%減少）となりました。

部品その他部門

ゴルフ用品は景気の低迷により振るいませんでしたが、自動車用内装部品は順調に推移しました。

以上により、当部門の売上高は71億70百万円（前年同期比1.3%増加）となりました。

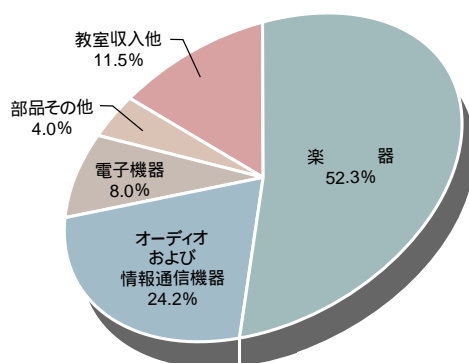
教室収入他部門

音楽教室の生徒数が減少したことから当部門の売上高は204億37百万円（前年同期比1.2%減少）となりました。

部門別売上高 (平成12年4月1日から平成12年9月30日まで)

部 門	主要商品等	売上高(百万円)
楽 器	ピアノ、電子楽器、管楽器、 弦楽器、打楽器、教育楽器、 音響機器等	93,304
オーディオおよび 情報通信機器	ホームシアター機器、コンポ ーネントステレオ、システム ステレオ、カラオケ機器、 CD-R/RWドライブ、ISDN ルーター等	43,126
電 子 機 器	半導体等	14,288
部 品 そ の 他	ゴルフ・アーチェリーの用 具、住宅音響設備、建築音響 設備、自動車用内装部品、各 種パーツ等	7,170
教 室 収 入 他	音楽教室、調律等の営業等	20,437
計		178,326

部門別売上構成



国内・輸出売上構成

国内 882億77百万円(49.5%)
 輸出 900億49百万円(50.5%)

業績の推移

売上高の推移

(億円)

期	上半期	通期
第174期	2,211	4,172
第175期	2,054	3,919
第176期	1,996	3,691
第177期(当期)	1,783	

経常利益の推移

(百万円)

期	上半期	通期
第174期	12,020	11,429
第175期	2,154	12,586
第176期	637	7,388
第177期(当期)	10,382	

当期利益の推移

(百万円)

期	上半期	通期
第174期	6,188	5,068
第175期	748	13,711
第176期	15,946	36,798
第177期(当期)	7,470	

貸借対照表の要旨

(平成12年9月30日現在)

(単位百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	105,095	流動負債	65,360
現金及び預金	18,924	支払手形・買掛金	39,273
受取手形・売掛金	46,073	短期借入金	1,034
棚卸資産	30,973	未払金・未払費用	20,709
繰延税金資産	7,614	諸預り金	1,216
その他	2,826	その他	3,126
貸倒引当金	1,317	固定負債	92,196
固定資産	201,701	転換社債	24,317
有形固定資産	52,055	長期借入金	6,220
償却資産	29,862	退職給付引当金	60,075
土地	21,635	その他	1,584
その他	556	負債合計	157,556
無形固定資産	197		
投資等	149,448	資本の部	
投資有価証券	48,632	資本金	28,533
子会社株式・出資金	65,411	法定準備金	30,939
繰延税金資産	28,567	剰余金	89,767
その他	7,885	(うち当期利益)	(7,470)
貸倒引当金	1,048	資本合計	149,240
資産合計	306,797	負債及び資本合計	306,797

- (注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 109,631百万円
 2. 輸出受取手形割引高 8,457百万円
 3. 保証債務 3,008百万円

損益計算書の要旨

(平成12年4月1日から平成12年9月30日まで)

(単位百万円)

売上高	178,326
売上原価	138,458
延払未実現利益	59
販売費及び一般管理費	31,592
営業利益	8,336
営業外収益	2,667
営業外費用	620
経常利益	10,382
特別利益	5,501
特別損失	3,569
税引前当期利益	12,314
法人税、住民税及び事業税	50
法人税等調整額	4,794
当期利益	7,470
前期繰越利益	3,100
当期未処分利益	10,570

連結貸借対照表の要旨

(平成12年9月30日現在)

(単位百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	221,942	流動負債	172,694
現金及び預金	32,844	仕入債務	51,379
売上債権	81,506	短期借入金	61,334
棚卸資産	92,225	一年以内返済の長期借入金	6,590
繰延税金資産	9,947	未払金・未払費用	37,580
その他	5,418	未払法人税等	1,872
固定資産	293,920	繰延税金負債	204
有形固定資産	163,866	その他	13,732
建物及び構築物	78,732	固定負債	153,150
機械及び装置	23,347	転換社債	24,317
土地	48,523	長期借入金	14,183
その他	13,263	繰延税金負債	1,686
無形固定資産	1,080	退職給付引当金	69,736
投資その他の資産	128,973	その他	43,226
投資有価証券	39,480	負債合計	325,845
非連結子会社及び関連会社株式	45,623	少数株主持分	3,124
繰延税金資産	30,320		
その他	13,549	資本の部	
		資本金	28,533
		資本準備金	26,924
		再評価差額金	8,301
		連結剰余金	168,289
		その他有価証券再評価差額金	354
		為替換算調整勘定	45,505
		自己株式	5
		資本合計	186,892
資産合計	515,862	負債、少数株主持分及び資本合計	515,862

連結損益計算書の要旨

(平成12年4月1日から平成12年9月30日まで)

(単位百万円)

売上高	251,268
売上原価	165,760
延払未実現利益	59
販売費及び一般管理費	72,970
営業利益	12,596
営業外収益	5,004
営業外費用	3,632
経常利益	13,969
特別利益	5,544
特別損失	3,433
税金等調整前当期純利益	16,080
法人税、住民税及び事業税	1,586
法人税等調整額	4,332
少数株主利益	133
当期純利益	10,028

ヤマハの原点<音><音楽>を見つめ、 楽器づくりの新たな一歩へ。



「ピアノ新世紀」の幕開けを
飾るヤマハピアノ100周年
記念事業。

グランドピアノ
「C3 センテニアル」



1900年に国産第1号のピアノを製造して以来、数々のモデルを世に送り出してきたヤマハ。100周年を迎えた今年、全国でさまざまな記念事業を開催しています。国内外の著名ピアニストによるリサイタル「ヤマハピアノセンテニアルコンサート」に加え、ピアノ音楽の楽しさ、素晴らしさを幅広いユーザーに体験してもらうための「作曲家おもしろ図鑑コンサート」「今は昔ピアノコンサート」など、ユニークな企画



ヤマハピアノ100周年謝恩 園田高弘ピアノリサイタル

も盛りだくさん。ほかにも、全国のピアノ指導者を対象とした記念講座・セミナー、ピアノを習う人へのメッセージを絵と文章で表現する「ピアノっていいな」絵本コンクールなど、趣向を凝らした記念事業が展開されました。



歴史的な名器とヤマハ技術の融合 ヤマハバイオリン 「ブラビオール」誕生。

本年6月より発売を開始したブラビオール「BRAVIOL (= BRAVO! VIOLINからの造語)」は、ヤマハの楽器づくり110年の歴史の中で、初のアコースティックバイオリンです。世界的に有名なイタリアのバイオリン名工、ガルネリ・デル・ジェスが18世紀に製作した名器をベースに、当社とイタリアの一流バイオリン製作者との共同研究により生まれました。ヤマハの高度な楽器製造技術と伝統的手法の融合により、音質・演奏性・外観美など、すべての点において高いコストパフォーマンスを実現し注目を集めています。

「ミュージック e テイメント」 をキャッチフレーズに、 「メディア総合戦略」で新世紀を切り拓く。



ヤマハグループでは、今後の経営の方向性の基軸として「メディア総合戦略」を掲げています。これは、当社のソフト・ハード・コンテンツの総合力を活かしてさらなる成長を図るもので、携帯電話関連事業をはじめ、新たなビジネスモデルを展開し注目を集めています。

レコ - ド業界への新規参入 「ヤマハミュージックコミュニケーションズ」

レコ - ド業界の情報と流通の変革が進むなか、当社では本年5月、新レコ - ド会社「株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ」を設立しました。独自のレコ - ド会社を持つことにより、音楽普及から



中島みゆき

プロデュース・制作・デリバリーまでのサイクルを、新しい手法で一貫して行っていきます。中島みゆき、CHAGE & ASKAなどの一流アーティストを擁し、現在はCDビジネスを主体に展開中。今後はさらに、ネットによる音楽配信ビジネス、電子商取引などにも力を注いでいきます。

ネット時代のオーディションイベント 「ミュージックフロント」スタート。

当社では、本年4月よりインターネットとライブを融合させた公開オーディション「MusicFront(ミュージックフロント)」をスタートしました。これは、新人アーティストの発掘と音楽配信をインターネットで



行う新しい試み。公募したアマチュア作品の楽曲を、ウェブ上で公開しライブを開催、人気投票により優秀作品を決定するものです。優秀作品はウェブサイト上で販売するほか、CDデビューのバックアップも。今後も新たな総合的音楽サイトとして、さまざまなネットビジネスを展開していきます。

「ミュージック e テイメント」:(eの意味=eコマース、eビジネス、エンタテインメント、エデュケーション)

株式および転換社債の状況

(平成12年9月30日現在)

株式の状況

- 会社が発行する株式の総数 700,000,000株
- 発行済株式総数 206,523,263株
(当上半期における転換社債の
転換はありませんでした。)
- 株 主 数 15,671名
- 株式の所有者別状況

金融機関	個人・その他	その他 国内法人	外 国 人	証券会社	政府・ 地方公共団体
112名 110,708千株 (53.6%)	15,017名 30,786千株 (14.9%)	272名 18,482千株 (8.9%)	230名 44,745千株 (21.7%)	39名 1,794千株 (0.9%)	1名 5千株 (0.0%)

•大 株 主

株 主 名	所有株式数	持株比率
株式会社第一勧業銀行	9,906,404株	4.80%
株式会社富士銀行	9,906,404	4.80
株式会社住友銀行	9,906,404	4.80
住友海上火災保険株式会社	9,269,925	4.49
三菱信託銀行株式会社(信託口)	8,462,000	4.10
株式会社静岡銀行	8,349,855	4.04
住友生命保険相互会社	7,450,000	3.61
日本生命保険相互会社	7,205,652	3.49
三菱信託銀行株式会社(信託口)	4,879,000	2.36
日本土地建物株式会社	3,889,300	1.88

転換社債の状況

銘 柄	第2回無担保転換社債
発行年月日	昭和63年9月30日
発行総額	25,000百万円
利 率	年1.9%
転換価額	2,200円
未償還残高	24,317百万円
償還期限	平成16年3月31日

取締役および監査役

(平成12年12月11日現在)

役職名	氏名
代表取締役社長	伊藤修二
専務取締役	岸田勝彦
常務取締役	前嶋邦啓
常務取締役	和智正忠
常務取締役	江川宣之
取締役	梅田吉弘
取締役	小池春樹
取締役	花本眞也
取締役	張替滋夫
取締役	加藤博万
取締役	黒江常夫
常勤監査役	太田直幹
常勤監査役	茶谷尚武
監査役	鈴木重文
監査役	中村公之

会社の概要

(平成12年9月30日現在)

- 商号 ヤマハ株式会社
YAMAHA CORPORATION
- 本店 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10番1号
- 設立 明治30年10月12日(創業明治20年)
- 資本金 28,533,357,385円
- 従業員 6,515名
- 主な事業所
支店 東京、大阪、名古屋、九州(福岡県)、
北海道、仙台
工場 本社、天竜、磐田、掛川、豊岡
(以上静岡県)、埼玉

株式のご案内

決 算 期	3月31日
基 準 日	3月31日
	その他必要があるときは、予め公告いたします。
定 時 株 主 総 会	6月
利益配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
1 単 位 の 株 式 数	1,000株
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞
名 義 書 換 代 理 人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	〒460-8685 名古屋市中区栄二丁目3番6号 中央三井信託銀行株式会社名古屋支店 証券代行部 電話(052)231-1145
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社本店および 全国各支店、日本証券代行株式会社本店 および全国各支店・出張所

株式の名義書換、単位未満株式の買取請求、配当金のお支払いおよび諸届等のお問合せは、上記名義書換代理人の事務取扱場所ならびに同取次所でお取扱いいたします。

なお、「財団法人証券保管振替機構」に預託されました株券についての諸届および手続等に関するお問合せは、お取引先の証券会社へお願いいたします。

(お知らせ)

名義書換代理人および同事務取扱場所の住所が変更になりました。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号

TEL: 053(460)2211

<http://www.yamaha.co.jp/>

この中間事業報告書は、再生紙を使用しております。